

やまと 民俗への招待

鹿谷 勲

法隆寺のカラブロには、「峯葉師御夢想湯」の看板と光明皇后の慈悲により難病者を救うために設けた御夢想蒸風呂であるとの手書きの説明板も掲げられていた。西円堂の薬師信仰とともに、法華寺の施浴伝説がこの地にも伝わっていたことが分かる。

風呂を運営していた団体は、薬師講とも峯葉師念仏講とも称していたが、丁寧に金錢出納帳や領収書なども残されていた。法隆寺の山の松などを焚いたので、法隆寺への薪代の他、西円堂への御膳料や御供料、地蔵会や聖靈院落慶の懇意なども出していた。また「国

防資材ノ献納」に対して、陸軍大臣板垣征四郎から念仏講に送られた昭和14年4月付けの感謝状や、朝日新聞社に軍用機献納資金を献金した昭和19年の領収書も残されている。火災保険の契約書や加入していた資料もあった。法隆寺の会式には、当時「郡山湯屋組合」に入っていた人々が西円堂で口うそく売りに協力し、お昼に色御飯をいただくのが楽しみだったという。

前回にはカラブロの人方を紹介したが、風呂の運営の実際や当時の社

会への貢献など、単に風呂を焚くばかりではなかった。また、薬師念仏講としてさ

く、時代は室町時代に遡るが、東里にも風呂があつた。

カラブロは一度移転し



風呂あがりにくつろいでいる様子、1970年ごろ

室町期から庶民のフロ

たとのことで、元は西円堂の南側の壇の外にあつたという。また法隆寺の『寺要日誌』には、明治31(1898)年9月13日に蒸風呂が新築されたと記されている。法隆寺には大湯屋が寺内にあるが、これとは別に明治に新設されたのがこの蒸風呂だ。されば、どのような経緯があったのだろうか。

法隆寺周辺の集落は、東里と西里などに分かれているが、紹介したカラブロは西里にあつた風呂で、時代は室町時代に遡るが、東里にも風呂がある。カラブロは一度移転し

た。法隆寺に残る天文18(1549)年「新造修理風呂之事」という文書によれば、東郷の風呂が天満社(斑鳩神社)の東南の角にあつたが、もめ事があり中断している。郷内衆などの要望もあるので、寺僧の持山に建て直すことを許可し、資材は寺から出すが、「風呂の興行」は寺の方針に従い、「風呂を焼く」日は寺に知らせ、まず学侶(学問僧)から入るものとするなどとある。一座で連歌を詠む時にも「興行」という。風呂は人々が集まる楽しみの場だったことが分かる。(奈良民俗文化研究所代表) 次回は10月7日